

# 国際標準化の活用と教育研究会における これまでの活動と今後の展望

黒川利明

デザイン思考教育研究所

国際標準化の活用と教育研究会

[toshiakikr@gmail.com](mailto:toshiakikr@gmail.com)

2019/1/29

# 伝えたいこと

- 研究会活動の継続には、  
人とシステムの更新が必要
  - 国内唯一の場
- 「(国際)標準」の中身と位置づけの変化
  - システム、サービス、オープン
  - フォーラム、オープン、マルチスタンダード
- 標準活用/標準作成の専門家だけでなく、標準も活用/作成できる人材育成
  - 簡単作成支援システム

# 2007年からの振り返り

- <http://www.y-adagio.com/public/committees/std/std.htm>
- 研究会、年次大会企画セッション、連載、セミナー
- 標準化活動スキル標準スタディグループ
- 参加人数

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
14	28	15	8	15	11	29	6	7+	8	15	13	13	6	22	14	12	33	7	25	12

- テーマ

# これまでのテーマ

- わが国はスタンダードにどう立ち向かうべきか
- 通信ビジネスと国際標準化
- 標準化戦略論と標準化活動評価モデル
- 標準化活動を継続的に行なうためのノウハウ
- 標準化活動の評価とプロセス
- 標準化教育のこれから
- 企業における標準化への取組み／標準化に関するホットピックス
- 標準化の支援と教育の課題
- 事業化と標準化教育
- 新分野標準化の人材育成
- 国際標準化活動に求められる資質と評価
- 国際標準化教育の最新動向
- 標準化活動に求められる人材の育成
- 標準化活動に求められる人材の育成のための検討
- 国際標準化のための次世代人材育成(ヤンプロ)
- グローバル人材・企業人材
- 「製品安全」に関する標準と人材育成
- 認証と国際標準
- 中小企業と国際標準
- これから求められる標準への取り組み方と人材育成
- 視覚・聴覚支援システムと標準化教育
- 学会活動と標準化の活用と教育

# 課題と現状

- 「議論の場」の有効性はどう測るか？
- 第1回の中から最近の「ルールメイキング」まで、主体的に国際標準を作る活動とその人材育成
  - 「戦略的国際標準化加速事業」など
- 世代交代への対策
  - ヤンプロ、JEITA
- 「製造は日本」でなくなったときの対策
- 経営層の認知と支援
  - CSO (Chief Standards Officer)

# 今後の課題(1)

- 国際標準という言葉で何を指すか
  - ISO/IEC/ITUだけでよいか？
- 変化変動が常態という時代
  - 変化に対応できる標準活動
  - 変化に対応できる組織を支える標準
- 国際標準を作成/活用する主体はどう変わるのか/変わらないのか
  - そのための教育はどうあるべきか
  - その教育をどうすべきか

## 今後の課題(2)

- 2017年度に行った教育セミナーを今後どう継続するか
- 対面の研究会以外の議論の場はどうか
- Webサービスも含めて個人に依存している現在の環境を今後どのように維持するか
- これまでに発表の場では出されていた課題をどうフォローするのか

その他、課題、議論  
お願いします